



山口県の

地域おこし協力隊
OB・OG 活動紹介 vol.3

「地域に貢献したい」「人とのつながりを大切にしたい」「夢を叶えたい」という思いを持って地域に移り住み、地域活動を積極的に行う「地域おこし協力隊」の制度が発足して13年が経過しました。

昨年度(令和3年度)の全国の地域おこし協力隊の配置状況は、1,085自治体、6,005人となっていますが、国では、4年後の2026年度(令和8年度)までに隊員数を1万人まで増やすことを新たな目標として掲げ、受入自治体や隊員へのサポートの拡充、応募者の裾野の拡大を図るPR活動の強化など、都市部から地方への新たな人の流れの創出・拡大に取り組まれています。

山口県では、市町や地域の皆様による手厚いサポートにより、2022年(令和4年)10月1日時点で、69人の隊員が各地域で活動しています。また、2021年(令和3年)3月末までに退任された隊員93人のうち、8割近い72人の方が、引き続き県内に居住され、隊員時代に培った経験やスキルを活かし、地域の担い手として活躍されています。

本誌は、こうした県内で活躍されている協力隊OB・OGの活動を広く知っていただくため、現在の暮らしや隊員時代の活動、現役隊員へのアドバイスなどを紹介する冊子の「第3版」として発行しました。

コロナ禍を契機に、首都圏等ではテレワークによる時間や場所に捉われない「働き方の新しいスタイル」が普及し、若い世代を中心に地方移住への関心も高まっています。本誌を通じて、より多くの皆さまが地方での暮らしや地域活動に関心を持ち、さらには県内の地域おこし協力隊の一員として活動するきっかけとなれば幸いです。

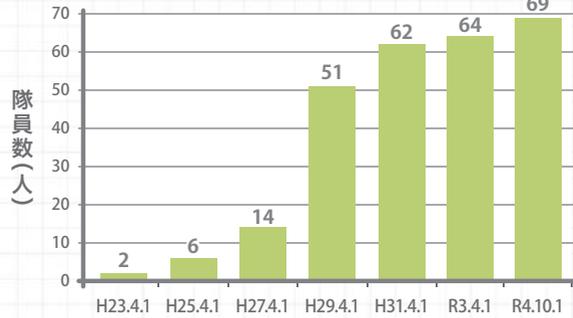
令和4年12月

「住んでみいね!ぶちええ山口」県民会議事務局
山口県総合企画部中山間地域づくり推進課
課長 渡壁 敏

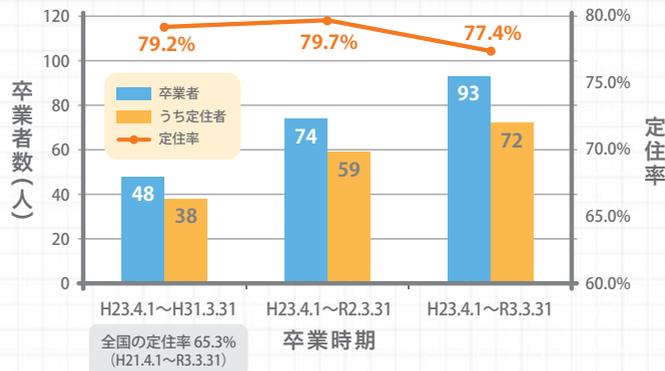
山口県の地域おこし協力隊（現役・OBOG）の現状

山口県では、69人の隊員が県内各地で活躍し、また、協力隊卒業者は93人、うち72人が県内に定着して活躍しています（R4.10.1現在）。

【 隊員数の推移 】



【 卒業生(OBOG)の推移 】



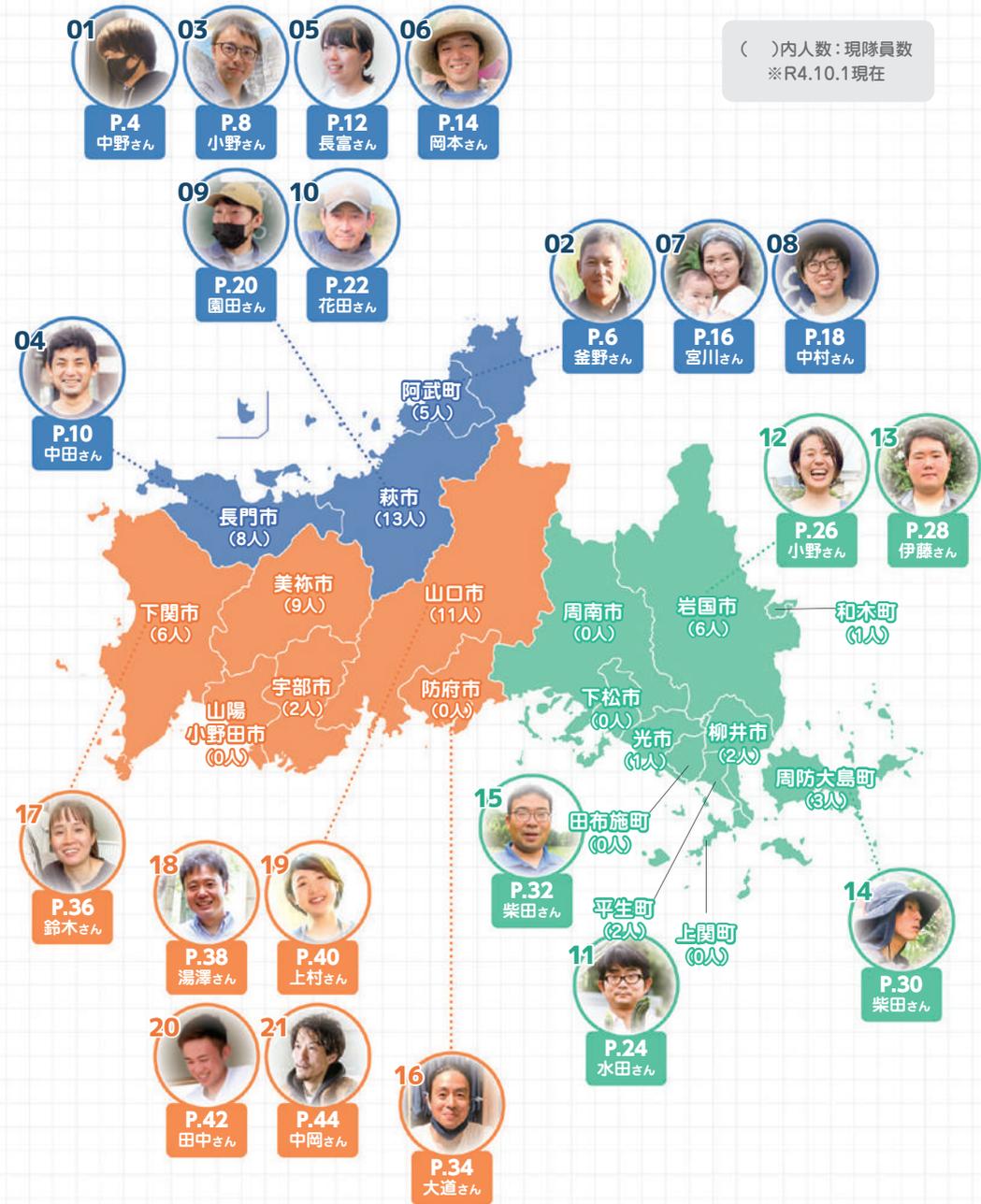
YY!ターンコンシェルジュ ～隊員やOBOGをサポート～

協力隊の活動や移住生活のこと、将来の起業など、3人のコンシェルジュ（ファイナンシャルプランナー、キャリアカウンセラー、移住経験者）にご相談ください。

TEL:083-933-2546

E-mail:yg-ckokoshi@pref.yamaguchi.lg.jp

本誌掲載者



なかのしょうた
中野 翔太
広告代理店 勤務



応募のきっかけは？

山口県出身の父から協力隊募集について聞き、興味を持ちました。大阪で就職していましたが、クリエイターやアーティストとしても活動の幅を広げたいとの目標があり、また、都会での生活に疲れていた時期でもありました。

着任してみて、想像と違ったことはありましたか？

想像していた以上に自然に触れる機会があり、新鮮な食材を食べ、人間らしい生活ができました。意外なところで人とのつながりが

できたり、そこからチャンスが広がったり、何よりも自分でゼロから企画し、いろいろなことにチャレンジできる機会があることが、良い意味でのギャップになりました。

隊員時代の思い出を教えてください

地域の最初の隊員として着任したので、協力隊についての理解や認知もなく、協力隊に不信感を抱いている方が多くいらして、地域に溶け込むのに苦労しました。メディアへ取り上げられることが多かったこともあり、活動に関しての不満を直接言われたときはかなり精神的にショックを受けました。辞めることも考えましたが、当時担当だった行政の方が耳を傾けてくださり、自分の卒業後の進路に関しても、地域に住むことを強要することなく、将来やりたいことに関して一緒に考えてくださいましたので、なんとか続けることができました。

現在、そしてこれからについて

独学でWebサイトを作っていました、やはりちゃんと学びたいと思い、卒業後にWebデザイナーのスクールに通いました。現在は、広告代理店が運営するスクールのスタッフとして働いています。もちろん、音楽についても、プロの奏者としての道を諦めていないので、ギタースクールにも通い基礎を学び直しています。協力隊での経験や今の仕事、スクールに通って得た知識を生かして自分にしかできないクリエイターとしての仕事をやっていきたいと考えています。ゆくゆくは山口県に住みながら、リモートやインターネット上でさまざまな事業を展開していきたいです。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

地方は、都会とは違った、人とのつながりから可能性が生まれ、思わぬところにチャンスがあります。着任前に卒業後のことをある程度イメージし、可能性やチャンスを生かしつつ、目標に向かっていくのが、協力隊制度を上手く活用できる方法なのかもしれません。

そして、良いように利用される、便利屋のようになるのは絶対避けた方が良いでしょう。話を聞き、目標と照らし合わせ、「これが本当に自分のやりたいことにつながるのか」を判断する必要があります。お互いが納得できる良い関係や、過ごしやすい暮らしを妥協せず模索してください。



隊員時代：盆栽の生け花イベント▶

なかのしょうた
中野 翔太さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 萩市
| 活動期間 | 2015年10月～2018年7月
| 活動内容 | 萩のおたから(文化遺産)を保存、活用する取組への支援など

▶ 現在の仕事

広告代理店 勤務

隊員時代：周南市のラジオ局



隊員時代：ALTとのバンド演奏

中野さんのあゆみ

- 2015.10 ◯ 協力隊着任
- 2016.04 ◯ 田万川地域の文化財「おたからマップ」作成
- 2016.12 ◯ 山口放送のラジオ番組出演 (Happy Paradise)
- 2017.04 ◯ 接客英語ワークショップ企画・実施
- 2017.08 ◯ 盆栽ワークショップ企画
- 2018.07 ◯ 協力隊卒業
- 2021.08 ◯ 就職



かまの けいぞう
釜野 敬三
「Akira farm」共同経営

02
-北部-

応募のきっかけは？

徳島県のサツマイモ農家から取り寄せた密芋を食べた時の感動が忘れられず、自分も「食べ物で人を感動させたい」という思いが強くなり、農家を目指すようになりました。

農業での移住先を見つけるために、何となく知っていた協力隊をインターネットで検索しました。県内外に限らず、1年間探し続け、阿武町の「農業支援員」が目にとまり、すぐに役場へ話を聞きに行きました。以前からトライアスロンの練習のため、阿武町には毎週休みの日に訪れていましたので、すぐに行動に移すことができました。阿武町での練習が下見にもなっていました。

着任してみて、想像と違ったことはありましたか？

家庭菜園では作物を上手に作る事ができましたが、本格的に商品とする作物を作るとなると教科書通りにはいきませんでした。

農業は教科書通りにすれば、問題なく収穫できると思っていたので、農業のイメージが変わりました。自分のスタイルに持っていくまでに時間がかかりました。

隊員時代の思い出を教えてください

ネギを栽培して販売するまでに、とても多くの作業があります。ネギ栽培を行いながら同時進行で、販路の開拓、圃場の確保、運転資金の資金繰り、作業機械の準備、機械及び肥料置き場の確保、調整作業の作業場の

隊員時代：ネギ栽培 



確保、冷蔵設備の準備、販売先までの輸送手段の確保、出荷先への出荷量の調整など、次から次へとやることもあり、また、課題も出てきます。任期中は時間に追われ、気が付いたら任期が終了していたという感じです。

実は、任期の3年間で農業を軌道に乗せ、雇用するところまでを考えていましたが、任期中は計画通りにいかず、自分の計画よりも1年半遅れました。これも学びなのかなと思っています。

現在、そしてこれからについて

ねぎ農家として安定した経営をすることを第一に考えています。いつの日か、趣味のラテアートを生かし、農業を志すようになった原点とも言える、「食べ物で人を感動させ、笑顔にする」ことを目標にしたカフェをやりたいと思っています。



協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

卒業後をイメージして、日々の活動を遂行してください。その中で共感や協力して下さる方を大切にしてください。協力隊としてのこの機会を大いに生かし、自分がやりたかったことをぜひ実現してください。

かまの けいぞう
釜野 敬三さん

▶ 協力隊として
| 着任地 | 阿武町
| 活動期間 | 2017年4月～2020年3月
| 活動内容 | 農業支援員

▶ 現在の仕事
「Akira farm」共同経営
| ホームページ |
<https://negi.akirafarm.com/>



▲ネギ畑



釜野さんのあゆみ

- 2016. トライアスロンの練習のため阿武町に通う
カフェでの見習い開始
- 2017.04 協力隊着任
- 2017.06 ネギ栽培開始
- 2020.03 協力隊卒業
- 2020.04 「Akira farm」設立
- 2021.12 カフェの物件に出会う
- 2022.01 カフェの物件購入



おの まさつぐ
小野 正嗣
萩市役所 職員

応募のきっかけは？

仕事が忙しく、心に余裕がなくなってきた、山口県内であればどこでも良いから帰りたいと思うようになりました。インターネットで山口県の仕事を調べていた際に、協力隊募集の文字が目に残り、協力隊については全く知りませんが、募集内容を見て「やりたいことができる。面白そう」と思い、応募しました。

隊員時代の思い出を教えてください

元々、料理が好きで、留学したフランスでも多国籍の学生同士で、お国の料理を作り合うホームパーティーを楽しんでいました。その経験から、レシピを見なくても、失敗してもOKで、参加された方が楽しんでもらえる「ヨーロッパ料理教室」を開催。その際に、料理にちなんだ国の文化も話をしていたのですが、それを楽しかったという方もいっしょに、「次はいつやるの?」と尋ねられる方もおられ、楽しんでもらえていることを実感できていました。

この料理教室がきっかけとなり、任期2年目に小川地区社会福祉協議会と一緒に「たまがわヨーロッパまつり」を開催することになりました。

大変だったことは？

活動エリアの小川地区と弥富地区は隣合わせなのに、合併前の名残か地域活動などのやり方が違いました。とにかく両地区のいろいろなところに顔を出し、頼まれ事はやるようにしました。支所に地元の方がおられ、地域内の人や場所、団体などを紹介してくだ

隊員時代：イベント準備



さり、自由に地域内を回らせてもらえ、本当に恵まれた環境でした。最初は何をして良いのか悪いのか、誰を頼って良いか、何を手伝ってもらえるのか、分からないことだらけでしたが、自由に積極的に動けたことで、地域に溶け込みすぎるくらい溶け込むことができました。

活動中のキーパーソンを挙げるとしたら？

任期3年目に入る前、「公務員になって、萩市を盛り上げたら良いよ」と教えてくださる方がいらっしゃいました。語学留学や市民活動に関する経験、自分の能力も生かせる部署が市役所内に多くあると言われ、「なるほど!その道がある!」と思い、目標が定まりました。

現在、そしてこれからについて

萩市に貢献できるので、市の職員になって良かったです。公務員を勧めていただいた方の言葉を胸にこれからも頑張ろうと思っています。コロナが収束したら、海外の方を萩市に呼びたいです。そして、萩市を訪れた方が、その魅力を伝えてほしいなと思います。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

「やりたい」と思ったことは、迷わずやった方が良いでしょう。将来について、特に定まっていない人は、地域を盛り上げていく手段の一つとして自治体の職員を目指すことをお勧めします。

おの まさつぐ
小野 正嗣さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 萩市
| 活動期間 | 2017年9月～2020年8月
| 活動内容 | 萩ジオパーク構想の推進

▶ 現在の仕事

萩市役所 職員



隊員時代：イベント会場



小野さんのあゆみ

- 2014. フランス留学
- 2017.09 協力隊着任
- 2019.04 たまがわヨーロッパまつり企画・開催
- 2020.06 萩市役所職員採用試験
- 2020.08 協力隊卒業
- 2020.09 萩市役所採用・勤務



04

-北部-

なかた こうじ
中田 晃司

「SNOW DRIP COFFEE」代表
集落支援員
仙崎通り町協議会事務局長

応募のきっかけは？

2017年8月、山口県主催のソーシャルビジネスコンテストに参加しました。残念ながら最終まで勝ち上がることはできなかったのですが、今後のためと思い、コンテストの優勝者のプレゼンを聞きに、夫婦で会場に向かいました。そこで、長門市で活動する協力隊と出会い、仙崎地区で協力隊の募集があることを知り、現地を訪れることにしました。地域の空気感、地域の人との触れ合いの中で、仙崎という地域に惹かれ、応募を決意しました。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

着任当初、「漁師町だから言葉がきつい」、「よそ者には冷たい」などと話す方もいらっしゃいましたが、実際には、よそ者でもしっかりと地域に向き合えば、親身になって話を聞いていただけるし、応援してくれる方もたくさんいました。そんな情に厚い土地柄が、仙崎の魅力だと感じています。

隊員時代の思い出を教えてください

地元の声を聞く機会が増えたり、リヤカーカフェの営業でお客様の声を聞く度に、ミッションで掲げられている地域課題と、実際の地域での課題にギャップがあると感じ、企画案を出すことを悩んだこともありました。

また、任期3年目はコロナ禍で、みずゞ通りイベント「軒先ハンドマーケット」が中止になるなど、影響もありました。卒業後の生活について、「コーヒーを商売にして、本当に生業としていけるのか」と開業を悩み続けましたが、

コロナ禍をきっかけに、「観光需要重視」の考え方を改め、地元の皆さんが日常に使ってくださる場を提供することを目標に、事業計画を書き直しました。行政や地域の方、家族との対話を繰り返すことで、私流の生き方を見つけることができたと思っています。

現在、そしてこれからについて

カフェの経営に加え、空き家を活用したゲストハウス、SUP、ハイキング、サイクリングなどのアウトドアの拠点を作っていきたくと考えています。

協議会を通じて、仙崎に住みたい人、事業をしてみたい人、夢を叶えたい人たちとつながり、地域の人々の生活がより豊かで、楽しくなる活動を行っていきたくです。子どもたちに「仙崎での生活が楽しい。ここで生活ができて良かった」と思ってもらえるような地盤を作り、持続的に住み続けられる地域にしていきたいです。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

それぞれ能力や思いをお持ちだと思います。「みんなちがって、みんないい」。個性と地域のポテンシャルがマッチすれば、大きな力になると確信しています。

隊員時代：リヤカーカフェ ▶



なかた こうじ
中田 晃司さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 長門市
| 活動期間 | 2017年11月～2020年10月
| 活動内容 | みずゞ通り活性化、定住・交流促進

▶ 現在の仕事

「SNOW DRIP COFFEE」代表、
集落支援員、仙崎通り町協議会事務局長
| インスタグラム |
https://www.instagram.com/yatai_snowdrip/



隊員時代：サイクリングイベント



中田さんのあゆみ

- 2017.08 山口県ふちええ
ソーシャルビジネス
プランコンテスト参加
- 2017.11 協力隊着任
- みずゞ通りイベント
「仙崎軒先ツバメ
MARKET」開始
- 2018.05 SUP体験会開始
- 2018.07 サイクリング
イベント開催
- 2018.10 リヤカーカフェ
営業開始
- 2018.11 家族の移住
- 2019.04 仙崎周遊ガイドブック
「グルメぐり仙崎」作成
- Webサイト
「グルメぐり仙崎」作成
- 2020.10 協力隊卒業
- 集落支援員(仙崎通り
町協議会事務局長)就任
- 2021.03 「SNOW DRIP COFFEE」
オープン



隊員時代：仙崎軒先ツバメMARKET



なが ども さち こ

長富 幸子

「Atelier kalton」代表

05

-北部-



応募のきっかけは?

父親の病気をきっかけに、2017年5月から、多い時は月2回ペースで実家のある見島に戻り、家の農業の手伝いをしていました。また、この頃、岡山県地域おこし協力隊ネットワーク代表理事の藤井裕也さんのことを母から聞き、協力隊について調べてもいました。見島の今後を考え始めるようになっていたこともあり、外からあれこれ言うよりも、現地にいないとできないことがあると思ひ、Uターンすることを決め、地域づくりに興味があったので協力隊に応募しました。都会で何かをするよりも、何もなくて自分が考え、何かするほうが楽しそうと思いました。

隊員時代：イベント会場



10数年ぶりの見島の生活はどうか?

お風呂をたいたり、自然を身近に感じられる生活は美しいと感じます。便利な世の中だからこそ失いたくない、魅力的に感じられる暮らしが自分に合っており、価値あるものだと思います。

着任してみて、想像と違ったことはありましたか?

思っていた以上に、地域の方が諦めモードだったことです。地域に「こういうことがやりたい」というものがあって、協力隊としてそれに向かって一緒にやってみて、やがては地域が自走していくというイメージを持っていました。「もう10年早かったらな」という言葉もよく聞きました。将来の展望がなく、島の未来が描けない状態でした。

隊員時代の思い出を教えてください

市内各所を巡り、そこで食材を分けていただきパエリアを作る「パエリア巡礼」で、岡本智之隊員(→P.14)と一緒に活動するようになり、島以外でも知り合いが増えていきました。

また、声をかけていただいた方と一緒に活動をさせていただく中で、チラシ作りをしたことがきっかけとなり、当時、協力隊だった吉田さん(山口県の地域おこし協力隊OB・OG活動紹介vol.2掲載)から声がかかるようになったことが、今のデザインの仕事などにつながっています。

現在、そしてこれからについて

見島と萩市内を行き来し、地域に育ててもらいながら仕事をしています。地域の変化には時間がかかるので、任期中の3年で何かをしようとは思っていませんでした。着任から5年後に変化が見えて、10年後に新しい未来が視界に入れればと思っていましたので、好きなことを楽しんで、長く続けられることをこれからもやっていきたいです。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

着任前に必ず現地に行ってみることをお勧めします。自分の人生の時間を使う場所なのかを考えて応募してください。そして、まずはきちんと話を聞くことです。「何者だったか」よりも、「今ここで何をしているか」だと思います。地域や行政などの環境のせいにならず、小さなことからコツコツとやりましょう。

隊員時代：
滞在型観光体験▶



なが ども さち こ
長富 幸子さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 萩市
| 活動期間 | 2018年1月～2020年12月
| 活動内容 | 観光交流事業・地域づくり活動

▶ 現在の仕事

「Atelier kalton」代表



隊員時代：パエリア巡礼



長富さんのあゆみ

- 2018.01 ○ 協力隊着任
- 2018.11 ○ チラシの作成開始
- 2018.12 ○ 滞在型観光体験プラン作成
- 2019.05 ○ 「パエリア巡礼」開始
- 2019.09 ○ 「Atelier kalton」開業
- 2020.03 ○ 冊子「萩 出汁の旅 from 萩パエリア巡礼」作成
- 2020.12 ○ 協力隊卒業



おかもと とも ゆき
岡本 智之
 カフェレストラン「彦六又十郎」
 オーナー

｜ 応募のきっかけ？

約1年間、イタリア、ポルトガル、ペルーで料理の修行をしました。帰国後、料理をするのに適した場所を探していたところ、「萩」に出会いました。その当時、協力隊だった友人の吉田さん(山口県の地域おこし協力隊OB・OG活動紹介vol.2掲載)に会うため、萩市へ遊びに行ったことが、萩市や協力隊について知るきっかけとなりました。「協力隊になりたい」よりも「萩が理想の場所だ」と思ったのです。市役所の方からは熱心に、「協力隊にならないか」と誘われていましたが、協力隊にならなくとも萩市に移住するつもりでした。

｜ 萩が料理をする場所として理想的なのは？

生産者が近く、歴史や器などの文化面がそろっているからです。

｜ どんな活動をしたいと思っていましたか？

「料理で社会を変えられる」と思っています。地域の注目されていない食材に価値を

見出し、料理を作ります。料金を付けることで生産者に還元でき、新たな料理を目指して外から人がやってくるようになり、そうすることで、地域全体が栄えることになります。

｜ 着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

着任前は協力隊の実情を把握していませんでした。自分がやりたいことが行政のルールの中では難しいというもどかしさがありましたが、そのうち、行政のルールの中でどう遊ぶかを理解し始めました。

｜ 隊員時代の思い出を教えてください

「パエリア巡礼」を企画し、萩市内の5か所



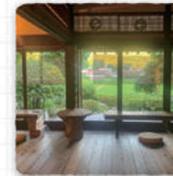
▶ 隊員時代、パエリア巡礼

で開催しました。どんな食材がどこにあるのかを知り、地域の食材で作るとどんな料理が生まれるか、その化学反応が見たいと思いました。

任期中、料理をする機会は減り、技術は衰えましたが、生産者さんとのつながりを通して、料理と地域のつながりや、食材がどうあるべきかという「食べることの根本」を学びました。ただ料理しているだけでは学べなかったことです。

｜ 現在、そしてこれからについて

「彦六又十郎」というお店をオープンし、田舎の良さを発信しています。今後は、市外からお客様を呼んで稼ぎ、地域に落とす。それを循環させて、地域丸ごと発展していこうと考えています。



次は「宿」をするつもりです。負のイメージがある田舎の価値を創り直し、人が羨むような空間を作り上げます。山



などの自然、古民家、空き地、全てを違う角度から創り直し、より多くの注目を集め、多くの人に足を運んでもらいます。いずれは移住者を集めたいと思っています。

｜ 協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

都会でうまくいっていない人が田舎に来てでも厳しいかもしれません。都会でぶつかっている壁をクリアできるようになった時に、田舎で勝負できるステージに立てるんだと思っています。



おかもと とも ゆき
岡本 智之さん

▶ 協力隊として

｜ 着任地 | 萩市
 ｜ 活動期間 | 2018年5月～2021年3月
 ｜ 活動内容 | 地域の食材を活用した地域活性化の活動

▶ 現在の仕事

カフェレストラン「彦六又十郎」オーナー
 ｜ インスタグラム |
https://www.instagram.com/hikoroku_matajurou/



☒ カフェレストラン「彦六又十郎」



岡本さんのあゆみ

- 2007. 岡山市でカフェをオープン
- 2009. 岡山市でイタリアン・バルをオープン
- 2013. 両店舗売却
- 2014. イタリア・ポルトガル・ペルーへ料理修行
- 2018.05 協力隊着任
 - 空き家バンクを通じ、カフェレストランの物件に出会う
- 2019.04 「パエリア巡礼」開始
- 2019.05 「パエリア巡礼」開始
- 2019.09 パエリア世界選手権(スペイン・バルシシア)出場
- 2019.10 萩市ビジネスプランコンテストでグランプリ受賞
- 2021.03 カフェレストラン「彦六又十郎」オープン
 - 協力隊卒業

07

-北部-

みやがわ なおこ

宮川 直子

阿武の魚の漁師めし「うおっちゃ食堂」代表
漁師

| 応募のきっかけは？

山口県内の高等専門学校を卒業後、オーストラリアやニュージーランドでワーキングホリデーをしたり、長野県の白馬村のホテルで従業員をしながら、バックパッカーとして世界30ヶ国を旅していました。

30歳を節目に「どこかに定住したい」と思うようになり、祖父母の住む阿武町を選びました。幼い頃から、漁師を営む祖父は憧れの人で、一緒に漁に出たい一心で移住を決意。その後、間もなく、知人からの紹介で協力隊の募集を知り、迷うことなく応募しました。



隊員時代：マグロの解体



| 隊員時代の思い出を教えてください

阿武町は、主要産業である水産業の更なる発展のために、その当時、毎月、(株)ウエカツ水産の上田勝彦さんを漁業に関するアドバイザーとして招かれていました。上田さんは、「魚の伝道師」として、水産業を中心とした地域おこしや魚食普及の活動を展開され、漁師さんに神経締めをはじめとした、魚の身を美味しく保つ技を伝えられていました。私も、上田さんから直接それらの技を学ぶ機会を得たことで、視野が広がり、漁業や水産業の可能性について、更に思いを巡らせるようになりました。

| 大変だったことは？

任期1年目は、定置網漁を中心に、乗組員の足りない船に毎日のように乗り込みました。地元の漁師さんと行動を共にすることで仕事を覚えていきました。2年目に入り、上田さんから学びながら、阿武町で獲れた魚の県外流通に取り組みましたが、コロナ禍で出荷が

ままならず、地産地消に切り替えることになりました。

そんな中、道の駅のテナントに空きができて、これをチャンスだと思い、半年で準備をして「うおっちゃ食堂」をオープンさせました。

| 現在、そしてこれからについて

「うおっちゃ食堂」を経営していますので、朝は家事の後、仕入れを済ませ、仕込みをしてランチに臨みます。食堂で提供する「漁師飯」は、漁師が魚との真剣勝負を終えた後、獲ったばかりの新鮮な魚を使って沖で食べる「漬け丼」のような料理で、半年足らずの短い準備期間の中、上田さんにご協力いただきながら、何度も試作を重ね、開発しました。おかげさまで、阿武町沖で獲れた魚にこだわったメニューはお客さまにも好評です。食堂で食べて、阿武町の魚を気に入ってくださったお客さまが、道の駅に立ち寄り、魚を買って帰っていただくことで、阿武町の漁師さんへ恩返しをしたいと思っています。



▲「うおっちゃ食堂」看板



▲「うおっちゃ食堂」定食

| 協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

必要とされていることをすると良いと思います。そのためにも、多くの人とコミュニケーションを積極的にとり、何が必要なのかをつかみ取ってください。

みやがわ なおこ
宮川 直子さん

▶ 協力隊として

着任地 | 阿武町
活動期間 | 2018年11月～2020年10月
活動内容 | しごと創出業務(漁業の活性化)

▶ 現在の仕事

阿武の魚の漁師めし「うおっちゃ食堂」代表、漁師
| インスタグラム |
https://www.instagram.com/naoko_woccha/?igshid=pu7j5bqx3s5d



「うおっちゃ食堂」厨房



宮川さんのあゆみ

- 2018.10 協力隊着任
- 2019.04 上田勝彦さんに魚の保存技術などを教わる
阿武町の魚情報をFacebookで毎日更新
- 2019.07 乗組員として定置網漁船へ乗船開始
- 2019.10 県外流通への取組
- 2020.04 町内料理教室の運営補助
- 2020.06 阿武の魚パンフレット作成
- 2020.08 道の駅阿武町で漁師めし食堂を開くことを決意
キャンプ場イベントで魚さばき教室実施
- 2020.10 協力隊卒業
- 2020.12 「うおっちゃ食堂」オープン

なかむら りゅうたろう
中村 龍太郎

ゲストハウス「暮らしを紡ぐ宿えのん」代表
「nating design (ナティンデザイン)」代表



08
-北部-

応募のきっかけは?

阿武町に移住し、築100年の古民家を引き継いでゲストハウスに改修することを先に決めていました。ただ、開業までの期間、収入がなくなることによって不安を感じていたため、この古民家の前オーナーで、かつ協力隊の先輩でもある方にご紹介いただいた協力隊に応募しました。

着任してみて、想像と違っていただけましたか?

海のそばなので夜にとっても風が強かったり、山陰の冬の曇りがちな天気や気持ちに沈みがちになったり、虫が多くて大変ということがあります。ギャップはあるのが当たり前です。地域の方の暮らしの知恵の豊かさには良い意味でいつも驚かされ、都会ではなかなかできない経験がたくさんありました。ご近所から畑の野菜を食べ切れないほどいただき、「作り話でなく、

本当にこんな出来事があるんだ」と驚いたり、空き家のDIY改修を手伝ってくださる人たちに感激したり、田舎暮らしで度々言われる「距離感の近さ」は、むしろ自分が求めていたことだったのかなと感じています。

成長したな、と思えることは?

何事に対しても「やってみれば意外とできるもんだ」という感覚で生きられるようになったことです。いろいろな方に助けていただき、ここまで来られたと思うので、常にご縁を大切に感謝を表すようにしています。ゲストハウスの「えのん」の名前は、「縁(EN)」と「恩(ON)」で「ENON」ということで名付けました。

隊員時代: ABUキャンプフィールドPRイベント



隊員時代の思い出を教えてください

着任前は建築設計の仕事をしていましたので、その経験を生かし、「ABUキャンプフィールド」の施設整備を担当しました。また、それに付随して、町の魅力発信やキャンプ場PRのイベントを県内外で多数企画したり、隣接する道の駅でのマルシェの立ち上げや、NPO法人「日本で最も美しい村連合」への阿武町の加盟承認に取り組みました。これらは全て、すでに町にある魅力を知りやすく体験したり、知ってもらうためのもので、新しく手を加えたものはほとんどありません。それをそのままの町の豊かさとして、皆さんがしみじみと感じて喜んでくださったことは良い思い出です。

現在、そしてこれからのについて

ゲストハウスはコロナ禍により休業中で、現在は、主にグラフィックデザインの仕事をしています。また、来春には、2年前から習っている竹細工を生かして、暮らしの道具を扱うお店「暮らしの荒物屋めぐる」も開業予定です。震災やコロナ禍など予期せぬ出来事を経て、一つの仕事に固執せず、その時にできる方法で仕事をつくっていけば良いんだと感じています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

協力隊になることを目的とするのではなく、「どんな生き方をしたいのか」を自問した上で、そのための手段として協力隊制度を利用する方が良いと思いますよ。

なかむら りゅうたろう
中村 龍太郎さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 阿武町
| 活動期間 | 2019年1月～2021年12月
| 活動内容 | まちの縁側担当

▶ 現在の仕事

ゲストハウス「暮らしを紡ぐ宿えのん」代表、
「nating design (ナティンデザイン)」代表
| ホームページ |
<https://abu-guesthouse-enon.com/>



「暮らしの荒物屋めぐる」



中村さんのあゆみ

- 2011.03 宮城県仙台市で東日本大震災に遭い、暮らしについて考え始める
- 2017.11 「みんなの移住ドラフト会議」参加、阿武町の存在を知る
- 2018.05 阿武町を初訪問。物件引き継ぐことになる
- 2018.08 結婚
- 2019.01 協力隊着任
キャンプ場施設整備、PRイベント企画運営、マルシェの立ち上げなど
- 2019.09 ゲストハウス「暮らしを紡ぐ宿えのん」オープン
- 2020.08 夫婦デザインユニット「nating design」の活動開始
- 2020.12 竹細工を習い始める
- 2021.12 協力隊卒業
- 2023.04 「暮らしの荒物屋めぐる」オープン予定



そのだ こうき
園田 滉樹
帽子屋「josui」代表

応募のきっかけは？

日本一周の旅をしながら、全国をあちこち周っていました。萩市にも何度か来たことがあり、知り合った家具職人の手伝いをしていたこともありました。長期的に住んでみたいと思うようになり、協力隊とも知り合い、情報を得て応募しました。

どんな活動をしたいと思っていましたか？

林業に興味関心があり、全国のいろいろなところで経験していました。地域によって植える木も違い、林業のやり方も異なる。萩市で自伐型林業をするからには、その土地に合ったやり方で活動したいと思いました。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

アグレッシブに動けるイメージでしたが、実際には予算がないと何もできないという思考に陥ってしまったこともありました。やり

たいことと求められることの違いなどは感じました。

隊員時代の思い出を教えてください

着任1年目は特に明確なミッションがなかったのですが、自分で決めて、行政の許可をもらって動きました。2年目からは、街をより良くしたいという志を持つ、若く熱心な行政の方と知り合い、活動内容を理解していただいたことで、行政のメリットも考えて動くことができました。

とにかくアイデアを出して、実行することで。人を変えることは難しいということはよく



隊員時代：福栄小中学校での木工体験

分かっていたので、相手が変わらなければ、自分が変わろうと思っていました。そういう考え方は、いろいろなところを旅していた時に身に付けました。そして、それが非常に役に立ちました。

現在、そしてこれからについて

任期中に結婚し、娘が産まれました。近所に子どもが少ないため寂しいですが、地域の方は優しい方たちばかりなので助かっています。

妻と共に帽子屋「josui」を起業しました。商品は主に、エクアドル産パナマハットや国産木材を使用したハットスタンド、麦わら帽子です。帽子製作の編み、木型製作、型入れ、ミシン仕上げの技術を磨き、妻のデザインした帽子に形を与え、日本中の方が僕たちの帽子を買えるデジタルな仕組みを作り、アナログな手仕事でこのデジタル社会を生き残りたいと思っています。

隊員を目指す人や後輩に伝えたいこと

予算に執着せず、やりたいことは身銭を切ってもやることです。イメージするだけで終わらせず、形作るために必要であれば、買える範囲で買ってください。



そのだ こうき
園田 滉樹さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 萩市
| 活動期間 | 2019年3月～2022年2月
| 活動内容 | 自伐型林業及び森林資源利活用に関する活動

▶ 現在の仕事

帽子屋「josui」代表



隊員時代：川上保育園での「木のかけらアート体験」



園田さんのあゆみ

- 2019.03 協力隊着任
- 2019.05 林業即戦力短期育成塾受講(5月～9月)
- 2019.10 木工技術習得のための研修開始
- 2020.08 萩市ビジネスチャレンジサポートセンター「はぎビズ」での商品開発
- 2021.03 結婚
- 2021.04 「はぎビズ」で起業準備
- 地域木材を使用した木育活動実施
- 2022.01 協力隊卒業
- 2022.02 エクアドルでの帽子製作
- 2022.03 帰国
- 2022.04 「josui」開業
- 沖縄、山口、名古屋、神戸、長野で展示販売会開催

10

-北部-

はなだ やすあき

花田 康章

畜産農家



応募のきっかけは？

人生半ばにしてこのままで良いのかと考え、いろいろな情報を集めていました。その中で、萩の見島の協力隊募集を知り、見学に行きました。萩には大学時代に住んでいた経験もあり、誰かの役に立ちたいという思いと、離島はその中でも一番困っているので、自分が行かなければ他に行く人はいないのではないかと考えました。魚釣りも好きだし、農業にも興味があったので応募しました。

見島牛の飼育



どんな活動をしたいと思っていましたか？

ミッションをきちんとこなし、自由に活動したいと思っていました。牛が特に好きということではありませんでしたが、自分が理想としている生活スタイルが見島での生活と一致していました。牛の世話は一年中しなければいけないので、週末になったからといって島外へ出て行くと成り立ちません。島内で仕事から遊びまで完結しなければなりません。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

便利さが違います。島内での生活は不便であるということは、ある程度想像していました。

隊員時代の思い出を教えてください

口に出して言わなくても、自分が一生懸命に牧草を作っているところや、見島牛を飼育しているところを島民の皆さんに見てもらっていました。すると、自然に島の人たちが協力

してくれるようになり、少しずつ少しずつ牧草を育てる畑を無償で貸してくださるようになりました。

牛の飼育以外の仕事があると、牛の世話を誰かに頼まなければなりません。一日たりとも牛の世話をしないの良いということはありません。

現在、そしてこれからについて

自分所有の見島牛を飼育し牧草を育てていますが、これだけでは収入が足りないの、空いた時間には他の農業の手伝いや道路維持管理、救急搬送支援などを行っています。今は牛のために他の仕事をしている状況で、これでは駄目なので、いろいろなことを改善し、島での生活を今後も続けていきたいと思っています。見島牛保存会員の平均年齢が高く、今後の存続が懸念されます。見島牛を継続して保護していくために、体制や環境改善をしていきたいと考えています。その体制が整えることができれば、協力隊などの受け皿となることも可能となるので、保存会の存続や見島牛の保存につながります。そのことをアピールし、見島牛を守っていきたくと思っています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

「郷に入れば郷に従え」ということを伝えたいです。自らが地道に、地域に求められ、喜ばれることをしていくのが良いのではないかと思います。そうしていると、地域の人から声をかけてくれるようになります。



魚釣りの様子

はなだ やすあき
花田 康章さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 萩市
| 活動期間 | 2019年3月～2022年2月
| 活動内容 | 見島ウシの保存に関する活動

▶ 現在の仕事

畜産農家



農場からの景色



花田さんのあゆみ

2019.01 ● 見島を見学

2019.03 ● 協力隊着任

2019.11 ● 農業大学校での研修

2019.12 ● 見島牛の飼育開始

2020.04 ● 牧草栽培開始

2022.02 ● 協力隊卒業

みずた かずた
水田 量太

製薬会社 勤務

11

-東部-



| 応募のきっかけは？

着任前も、緑が多く住みやすい街にいましたが、夫婦共に地元から遠く、年に2回しか戻れないことに、もどかしさを感じていました。「いつかは地元に戻ろう」と思いながらも、数年が過ぎ、情報収集は続けながら、実現できない状況でした。

2016年、大阪で開催された移住フェアに参加し、地元の近くで就農できる場所や農業に関連する仕事はないかと探していたところ、40年以上前から環境保全型農業に取り組まれている平生町が協力隊を募集していて、特産品開発業務に携われることを知り、興味を持ちました。

2017年には次男が生まれ、待機児童で保育園に入れず、また、アトピー性皮膚炎を発症したこともきっかけとなり、移住を決意。その際、平生町の協力隊募集のことを思い出し、応募しました。

▶ 隊員時代、カリフロレの栽培



▶ 隊員時代イベント会場



| 隊員時代の思い出を教えてください

着任1年目は隊員として何をすれば良いのかが分からない状況でした。ミッションはありましたが、町役場の方や農家の皆さんとの意思疎通が難しく、ニーズが分からず苦労しました。根気良く農家の皆さんのもとへ足を運び、直接お話を聞かせていただくなどして、相互理解を深める努力を続けました。

| 大変だったことは？

協力的な方がいらっしゃる一方で、何をやっても非難を受けることも経験しました。現実的な話をすると、最初の1～2年は金銭面でも大変でした。移住前に想定していたよりも多くの支出もありました。任期中の3年間を有効に使い、起業することを考えていましたが、協力隊

の活動をしながらの準備は難しく、役場に相談をして時間をセーブしていただいたこともありました。

| 現在、そしてこれからについて

平日は会社員として働き、週末は農業をしています。協力隊の時から作り始めたイタリア野菜の栽培や小学校の児童たちとのカリフロレの栽培は、現在も続けています。平生町の未来を創る子どもたちは宝ですから、これからも子どもたちとイタリア野菜を栽培し、収穫体験をしてもらう活動は続けていきたいと思っています。

未来の夢というより、今の生活をどのように継続していくかを意識し続けたいと思っています。「平生町で生きていく」と決めたので、ここで子どもたちとの日々の生活の一つ一つの出来事を丁寧に、大切に過ごしたいと心から思っています。



| 協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

心がワクワクすることがあったら、それをやってみることが一番大切です。地域振興や地域の課題に取り組むことは重要ですが、そこに子どもたちとの活動を加えていくと、より豊かな時間を過ごせると思います。子どもたちは地域の宝ですから。

みずた かずた
水田 量太さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 平生町
| 活動期間 | 2018年2月～2021年1月
| 活動内容 | 地元農産物を使った特産品・メニュー開発

▶ 現在の仕事

製薬会社 勤務



自宅の畑



水田さんのあゆみ

2016. ○ 大阪の移住フェア参加

2017. ○ 次男誕生

2018.02 ○ 協力隊着任

2019.03 ○ イタリア野菜の栽培開始

2020.09 ○ 小学校でカリフロレの栽培開始

2021.01 ○ 協力隊卒業



おのあやか
小野 綾香

「Class Biz.」コーディネータースタッフ
「ひとつぼ」代表

12

-東部-

応募のきっかけは？

30歳の節目でUターンを決意し、東京での移住イベントに参加しました。その時、岩国市出身で首都圏在住の方に出会い、協力隊の募集を知りました。締切の10日前に応募し、イベントから3ヶ月後には協力隊として着任していました。

どんな活動をしたいと思っていましたか？

地域にどっぷり入っていくのが協力隊のイメージでしたが、私の活動は特定の地域に入るのではなく、市内全域で動けるのが面白いと思っていたので、地域の垣根を越えた自由な活動をしたいと考えていました。

隊員時代：取材中



着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

決められたり、与えられた日々の業務がはっきりあるわけではなく、自分で仕事を探す必要がありました。そのため、着任後の1ヶ月間は協力隊として何をすべきか、何を求められているのかが分からず、ただ市の特産品などの資料を読むことしかできず、とてもつらかったです。

隊員時代の思い出を教えてください

着任して半年後、枯れたハスの繊維で作る織物「喜茄織」に出会ったことが、活動の上での転機になりました。喜茄織と命名させていただいたり、ものづくりに向き合うことを通して、「自分が求められている」と初めて感じる事ができ、活動そのものが面白くなってきました。また、市内の生産者や事業者を訪問し、話を聞く中での発見も多かったです。いろいろな方とつながっていく感覚も面白かったですね。生産や製造現場の話聞いたことは、

東京のイベントに参加した際、特産品の販売ブースで、お客様にリアリティのある商品の説明につながり、役に立ちました。自分が地元の紹介をできることは嬉しかったです。

コロナ禍となった時には、何かできないかと考えて、岩国ブランドの認知度アップとその魅力をもっと知ってもらうために「岩国ブランド魅力浸透プロジェクト」を開始し、取材をもとに「岩国ブランドカード」や「岩国ブランドブック」を作成しました。

現在、そしてこれからについて

卒業後、岩国しごと交流・創業スペース「Class Biz.」のコーディネータースタッフになりました。現在は娘を授かり、母親業に専念していますが、子育てと仕事のバランスを取りながら、特産品に関わる個人事業「ひとつぼ」を軌道に乗せたいです。生産者の手助けをし、商品を通して岩国市内外にこの街のファンを増やしていきたいです。



「Class Biz.」にて▲

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

受入先などと、しっかりコミュニケーションをとった上で、自身の強みを生かして大いに羽を伸ばしてください。行政の方も見守ってくれているので、味方になってもらうと思った以上に遠くへ行けます。しっかりと連携をとってください。いろいろな人にとって話を聞くのはお勧めです。

おのあやか
小野 綾香さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 岩国市
| 活動期間 | 2018年8月～2021年3月
| 活動内容 | 特産品の開発

▶ 現在の仕事

「Class Biz.」コーディネータースタッフ、
「ひとつぼ」代表
| ホームページ |
<https://hito-tsubodepartment.stores.jp/>



▲隊員時代：商品撮影中

特産品販売などを
オンラインで行う時の屋号
「ひとつぼデパートメント」▶



小野さんのあゆみ

2018.08 ○ 協力隊着任

2019.02 ○ 枯れたハスの繊維で作る織物「喜茄織」に出会う

2020.02 ○ 「岩国ブランド魅力浸透プロジェクト」開始

個人事業「ひとつぼ」開業

2021.03 ○ 協力隊卒業
2021.04 ○ 「Class Biz.」コーディネータースタッフとして就職

2022.05 ○ 出産

13

-東部-

いとう いさお
伊藤 勲

運送会社 勤務

| 応募のきっかけは？

大学では将来、教員になる勉強をしていましたが、大学4年の時に思わぬ出来事から他の方向を探ることになりました。誰かの支援や手助けになる仕事として、青年海外協力隊のような仕事はないかと探したところ、協力隊にたどり着きました。

| どんな活動をしたいと思っていましたか？

「どうせやるならできるだけ難しいところで活動しよう」と思い、人口が少なく、高齢化率が高く、地理的条件の厳しい離島の柱島を選びました。10年後や20年後に、もしかすると無人になるかもしれない島を何とかしたいと思いました。

隊員時代：イベント会場



| 着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

大学時代にフィールドワークで、島や中山間地域を訪れていた経験から覚悟はしていて、予想通りでした。挨拶に気を付け、慎重に活動を進めました。島で市街地の子どもたちが新しい体験をしたり、島民と交流ができないかと思い描いていました。

| 隊員時代の思い出を教えてください

約3000平米の耕作放棄地をひまわり畑に生まれ変わらせました。最初の半年間、草刈りがとても大変で、ひまわりの開花までに2年かかりました。

静かな島ですが、毎日、いろいろなことが

隊員時代：草刈り作業



起こります。例えば、「イノシシが捕まったから手伝って」など、何かが突然起こるのが日常でした。日々の出来事の全てに対応しなければならなかったのが、対応力は上がったと思います。

| 活動中のキーパーソンを挙げるとしたら？

柱島の皆さんには、企画に賛同していただいたり、できる限り参加もしてくださったり、本当に感謝しています。

| 現在、そしてこれらについて

周南市の企業に就職しました。自分を含めた地域全ての人々が、「なんだか分からないけどワクワクする面白そうなこと」を仕掛けていけたら良いと思います。

| 協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

やりたいことを一つに絞って進み続けると、頓挫した時に大変です。実際に、自分も大学4年の時、そして、協力隊の最終年にはコロナ禍となり、方向転換をすることになりました。セカンドプラン、サブプランも考えながら、動いたら良いと思います。

そして、卒業後の就職活動は意外と難しいですよ。履歴書に「協力隊」と書いて提出すると、「協力隊って何？」と聞かれることがありました。



隊員時代：柱島にて▲

いとう いさお
伊藤 勲さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 岩国市

| 活動期間 | 2018年8月～2021年3月

| 活動内容 | 漁業・農業及び地域活動グループの支援

▶ 現在の仕事

運送会社 勤務



ひまわり畑



伊藤さんのあゆみ

2018.08 ○ 協力隊着任

2018.09 ○ 大学卒業

2018.10 ○ 耕作放棄地の
草刈開始耕作放棄地の
草刈終了

2020.03 ○

2020.05 ○ ひまわりの種まき

2020.07 ○ ひまわりの開花

2021.03 ○ 協力隊卒業

2022.03 ○ 就職



応募のきっかけは？

長女が生まれた2017年の年末頃から子育て環境について考え始めました。その頃は保育園の待機児童問題が取り上げられてもいました。妻が柳井市出身のため、馴染みのあった岩国市や柳井市を中心に移住先を探していましたが、周防大島町のことを知り、「大島、面白そう」と心が動き、協力隊に応募しました。

どんな活動をしたいて思っていましたか？

正直な話をすると、「行ったら何とかなる」と思っていました。前職は印刷業でしたし、音楽編集ソフトを使用して楽曲制作などもしていましたので、映像編集ソフトにもすぐに馴染めました。また、担当する周防大島チャンネルは、既に活動中の方がいらっしや、下地は出来上がっていたので、そこに参加していくイメージでした。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

妻の実家への帰省で、山口県の土地柄には馴染みがありましたし、自分自身も田舎出身ですから、東京からの移住とはいえ、スムーズに田舎暮らしに入っていくことができました。

隊員時代の思い出を教えてください

着任後3ヶ月が過ぎた頃、周防大島チャンネルの番組の取材をする中で、柑橘農家の「山本弘三さん」と「弘三さんのミカン」に出会いました。人生で味わった中で一番美味しいと感じたミカンでした。これが縁で、自分自身も柑橘農家

隊員時代：番組制作



として就農を目指すことにしました。

また、周防大島チャンネルでの番組制作の仕事は、企画から取材のアポイント、制作編集のスケジュールも全て一人でいきます。チームで仕事をするよりも、一人で黙々と仕事をするほうが向いていたようで、好きなように自由にやらせていただきました。この感覚は、今の柑橘農家の仕事とも共通していて、性に合っているなと感じています。

現在、そしてこれからについて

3~4年後はミカンをメインにした環境にシフトすることを目標に、新たな苗木を植えるなどして生産量を増やしています。



また、栄養士の資格を持つ妻がカフェ経営を目指していることもあり、店舗兼住宅を購入しました。妻の夢が早く実現するよう、そして家族との時間を大切にするためにも協力したいと思っています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

誰にでも何がしかの縁があると思うので、コトやモノに限らず、自分と縁のあるものをたどってみるのも良いかもしれません。知らない未知の世界でも、事前に調べて準備していれば、良い出会いになるのではないかと思います。

時に、「イメージが違っていた」という言葉を耳にすることがありますが、あまり気持ちの良いものではないと感じます。移住する前から勝手なイメージを固めてしまった結果ですから、あまり気負わず、柔軟な考え方を持つことが大事なかなと思います。

しば た まなぶ 柴田 学さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 周防大島町
| 活動期間 | 2018年9月~2021年8月
| 活動内容 | 周防大島チャンネルの番組制作や町のPR活動

▶ 現在の仕事

水産加工会社 勤務、柑橘農家



栽培ミカン



柴田さんのあゆみ

2017. 移住イベント参加

2018.09 協力隊着任

2018.12 山本弘三さんに出会い、ミカン栽培に興味を持つ

2019.04 柑橘栽培(座学・実習)について学び始める

2020.05 就農

2021.08 協力隊卒業



しばた いさお
柴田 功
「普喜農園」代表

15
- 東部 -

| 応募のきっかけは？

着任する2年前から岩国市にある祖母宅へ農作業の手伝いに来ていました。自己流での農業に限界を感じ、2018年の春、2泊3日の「やまぐち就農ゆめツアー」に参加。その時に、各市町がPRに来られていましたが、たまたまその日が大雪で、お目当ての岩国市の参加がありません。たまたま田布施町のブースへ行き、協力隊を知りました。

| 着任してみて、想像と違ったことはありましたか？

店は遠いのですが、信号や渋滞がないことから、意外と早く着くことができます。都会では近くに行くのにも、車では時間がかかっていましたので、運転のストレスがなくなりました。

📷 隊員時代：農作業



| 隊員時代の思い出を教えてください

着任1年目に田布施町の「イチジク栽培大学」で学び、圃場を1畝借りて、イチジクの栽培を開始しました。諸事情で急遽6畝が加わって、1年目は豊作となり、収穫や出荷の楽しさ、大変さを知りました。2年目は長雨や寒波で不作となり、大自然の強大さと農業の厳しさを知ることもできました。

露地栽培で実ったイチジクはとても甘く、「こんなにも美味しいのか」と持っていたイチジクのイメージが一新され、この感動を少しでも多くの人に味わってもらうためにも、露地栽培にこだわってイチジクを生産していきたいと思っています。



| 活動中のキーパーソンを挙げるとしたら？

受入先の農事組合法人や地域の皆さんです。今でも「何でも使って良いよ。ハウスでも機械でも」と言ってもらえます。

また、観光協会の方にもお世話になり、本当に出会えて良かったと思っています。



📷 イチジク



📷 隊員時代：イチジク栽培

| 現在、そしてこれからについて

家族がいますから、1週間フルに働いています。農業以外にも田布施地域交流館で週4日、その他にもアルバイトをしています。農業は、時期をずらしてイチジクのほか、米やサツマイモなども栽培しています。冬の農閑期は、任期中に伐木の資格を取りましたので、間伐材でチップ作りをするなど年間を通して、仕事を組み合わせてやっています。間伐材チップ置場はカプトムシの産卵場所になるため、たくさんの幼虫が羽化します。その幼虫は幼児教育に良いかなと思い、町内の保育園や幼稚園に配っています。

また、加工場に乾燥機を導入し、規格外の野菜や果物に付加価値を付けるべくドライ化を始めました。更なる商品化を目指し、フードロスの削減にも貢献していきたいと思っています。



ドライ化商品▲

| 協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

行政としっかりとした話し合いができる環境を自分からやっていくことが大切です。

しばた いさお
柴田 功さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 田布施町
| 活動期間 | 2018年10月～2021年9月
| 活動内容 | 農業

▶ 現在の仕事

「普喜農園」代表



柴田さんのあゆみ

- 2017. ○ 祖母宅の農作業の手伝い開始
- 2018. ○ 「やまぐち就農ゆめツアー」へ参加
- 2018.10 ○ 協力隊着任
- 2019.04 ○ イチジク栽培開始
- 2021.08 ○ 「普喜農園」開業
- 2021.09 ○ 協力隊卒業
- 2021.12 ○ 加工場内に乾燥機導入
- 2022.03 ○ ドライフルーツ商品化
- 2022.04 ○ 家族の移住



16

中・西部

だいたいどろりゅうじ
大道 竜士

工房「草衣so-i」代表

応募のきっかけは？

2014年頃から移住を考え、その当時は浴衣や手ぬぐいを染める注染職人として働いていましたが、自分たち夫婦のモノづくりの理想として、「なるべくゼロの地点から形作っていく」ということがありました。服を作るなら生地から、生地を作るなら糸から、染料を使うなら山や畑からのものを使う。全てが理想の通りにできるかどうかは分かりませんでした。その環境を得るには都会では難しく、地方に希望がありました。子どもは生まれたばかりで、子育て環境にも地方は適していると思い、協力隊への応募を決めました。

どんな活動をしたと思っていましたか？

染織工房の設立と農業の技術を習得したいと思っていました。また、活動地の空き家や耕作放棄地を利用し、再生するような活動ができればとも思いました。

▼ 隊員時代：ソーシャルビジネスコンテストの授賞式



着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

海や山が近く、畑があって夜も暗い。静かで気候も良く、とても良いところでした。ここでなら豊かな暮らしが築けるのではと思いました。

隊員時代の思い出を教えてください

全国の様々な工房へ視察に行きました。多くのことを学び、現在でも助言をいただける関係を築くことができました。

大変だったことは？

卒業後の仕事や生活について、任期中にしっかりと計画を立てていくことはとても難し

▼ 藍の畑



かったです。技術の習得や工房設立の準備、畑の管理などのたくさんのミッションをしながら、協力隊の様々なルールの中で卒業後を考えていくことはとても大変でした。金銭的な部分での負担も覚悟が必要でした。

活動中のキーパーソンを挙げるとしたら？

地域の方々です。移住後7年が経過しましたが、温かく迎え入れていただき、家族みんなが多くのごことで助けられています。子どもたちは、地域に馴染み、とても嬉しく思っています。

現在、そしてこれからについて

卒業と同時に、工房「草衣 so-i」を設立して4年が経ちました。工房での制作、ギャラリーや百貨店での展示会、大学での講師など染織に関わることを仕事にしています。また、自分の畑を持ち、藍や綿、自家用の野菜などを育て、この土地だからこそできる暮らしを営んでいます。現在の仕事を「家業」として、土地に根を張って暮らしていきたいと思っています。



協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

卒業後も定住することを勧めます。地域のことや自分の暮らし、卒業後に見えてくるものがたくさんあると思います。普段の生活では関わりのない様々な人との出会いも楽しめるようになると思います。



工房「草衣so-i」にて▲

だいたいどろりゅうじ
大道 竜士さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 防府市
| 活動期間 | 2015年9月～2018年9月
| 活動内容 | 藍の栽培・藍製品の商品開発、販路拡大

▶ 現在の仕事

工房「草衣so-i」代表
| インスタグラム |
https://www.instagram.com/so_i



📷 藍染作業中



大道さんのあゆみ

- 2015.09 ○ 協力隊着任
- 2015.11 ○ 徳島県での研修
藍染の原料「菜」の初仕込み
- 2016.03 ○ 藍の栽培開始
- 2017.08 ○ 山口県ふちええ
ソーシャルビジネスプラン
コンテストグランプリ受賞
- 2018.01 ○ 工房の改装開始
- 2018.09 ○ 協力隊卒業
工房「草衣so-i」
オープン



すずき かの
鈴木(新野) 加奈

主婦(育児中)

17

中・西部

応募のきっかけは?

下関市を旅行し、綺麗な海に憧れて移住しようと思いました。1度目の旅行の時は、豊北地区の角島などを「綺麗ななあ」で終わらせていましたが、その後、再び訪れた時に「住みたいなあ」に変わりました。移住となると、12年間の栄養士としての仕事を辞めなくてはなりません。でも、以前から知っていた協力隊の制度を使えば、「仕事」と「住まい」の心配がなくなり、移住できると思いました。この制度は本当に良いですね。旅行から帰るや否や下関市の協力隊について調べ、募集を見つけたので、すぐに応募しました。旅行先で移住しようと決めた1週間後には面接日が決まり、1ヶ月後には面接のため豊北地区に来ていました。



隊員時代: 野菜マルシェ



大変だったことは?

田舎だと分かった上で着任しましたが、初めての一人暮らしに最初は慣れず大変でした。すぐにホームシックになり、半年間はつらかったですが、地域の方と一緒にイベントに参加するうちに楽しくなり、そうした活動の中で、自分自身が成長していると実感できるようにもなりました。少しずつ知り合いも増え、自分を出せるようになり、青年部や地域の友人に悩みを相談できるようになりました。

隊員時代の思い出を教えてください

私のように下関市の魅力をきっかけに移住する人が増えるような活動をしたいと思い、着任後すぐに始めたのが、「地域おこし協力隊通信」

の発行です。2ヶ月に一度のペースで、地域で手に入る食材の紹介やそれらを使ったレシピ、移住後に気になった方言を掲載しました。

豊北地区の綺麗な海を眺めながらのヨガイベント「ビーチヨガin豊北」など、人を呼ぶ企画も実施していましたが、コロナ禍となり、活動の内容によっては方向転換をしなくてはいけないことも経験しました。そんな中、「地域の中で、できることは無限にある」と思い至り、やりたいことを1つに絞らず、できないことなく、今できることを見つけて活動しました。

現在、そしてこれからについて

現在、子育て中です。コロナ禍ですし、いろいろ出歩けない不便さもあり、「どこの小児科が良いか?」などの子育てに関する細々とした情報の入手が難しいと感じています。

子育てが一段落したら、協力隊の時のように地域を盛り上げるイベントなどを豊北地区でまたやりたいと思っています。一緒にやってくれそうな人は周りにたくさんいます。

協力隊を目指す人や後輩への伝えたいこと

住む地域を好きになることが一番です。



すずき かの
鈴木 加奈さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 下関市
| 活動期間 | 2018年4月~2021年3月
| 活動内容 | 地域特産品の開発

▶ 現在の仕事

主婦(育児中)



隊員時代: ヨガイベント



鈴木さんのあゆみ

- 2004. ○ 友人と下関市などを旅行
- 2017.07 ○ 家族で下関市などを旅行
- 2018.04 ○ 協力隊着任
- 2018.08 ○ 商工会青年部に所属し
- 2018.09 ○ イベント(海峡花火大会、馬関まつりなど)参加
- 海でのヨガイベント企画(2019年6月も企画)
- 2020.04 ○ 野菜マルシェ企画(卒業まで月に1度)
- 2021.03 ○ 野菜ソムリエ取得
- 協力隊卒業
- 2021.11 ○ 出産



ゆざわ けい
湯澤 慧
リフォーム会社 勤務
スクールバス臨時運転士

18
-中・西部-

応募のきっかけは？

自転車フレームデザイン技術を学んでいた専門学校在学中に、課外授業として、阿東地域で取り組んでいる竹を使った自転車の制作イベントに参加しました。その後、地元の方から声がかかり、インターンシップとして地域に1週間滞在。阿東の竹自転車のプロジェクトに継続して関わることで、地域に貢献したいと思うようになりました。

地域の方と交流する一方で、市役所の担当の方へもアピールし、「自転車と地域資源を活用した地域活性化」をミッションとする「協力隊枠」を準備していただき、応募しました。

隊員時代：イベント会場



着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

阿東に竹フレームの自転車制作技術を持つ方がいらしたにも関わらず、実際は作業環境が整っていませんでした。廃校の理科室の使用や、廃ガソリンスタンドを作業場にする動きがあり、それぞれ作業環境の整備を行いました。いずれも困難を極めました。

隊員時代の思い出を教えてください

阿東には自転車屋が1軒しか残っていないため、自転車の専門家として地域の役に立つことを考えました。サイクリングツアーの主催や、学校の一輪車の整備をしたことがきっかけとなり、子どもたちに一輪車の乗り方を教えることもありました。これらの経験から、「将来も地域の役に立つことしよう」と考えるようになりました。そして、阿東に住み続けるためには技術を身につけようと、当時、担い手が不足していた生活バス路線の運転手になるため、大型2種の免許を取得しました。

大変だったことは？

作業場が確保できず、自転車の制作が進まないために焦った時期もありました。モチベーションが下がった時は、ゆっくりと休息を取り、楽しく活動できる時は集中して取り組みました。やりたいか、やりたくないかを含め、はっきりと自分の意志を伝えるように努めました。遠慮していたら何もできません。卒業後にどうするかは自分の問題です。

現在、そしてこれからについて

卒業後の1年間はスクールバスや生活バスの運転手としてハンドルを握り続けながら、電気工事士や自転車整備士の資格を取得しました。現在は電気工事士をしながら、どこかで購入された自転車を修理しています。お隣さんと付き合い、癒されながら楽しむというスタイルを大切にしたいですね。そして、自分の技術でできることを手伝い、自転車屋を軌道に乗せたいと思っています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

コミュニケーションを積極的にとり、本当にやりたいことを考えてください。自分の人生をどうしたいかを考え、やりたいことをやる3年間にしてください。楽しんでいればどうにかります。



▲子ども用バンパーバイク

ゆざわ けい
湯澤 慧さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 山口市
| 活動期間 | 2018年5月～2021年4月
| 活動内容 | 自転車と地域資源を活用した地域活性化

▶ 現在の仕事

リフォーム会社 勤務
スクールバス臨時運転士



📷 自転車制作



湯澤さんのあゆみ

- 2017. ○ 阿東地域との交流開始
- 2018.05 ○ 協力隊着任
- 2019.11 ○ 萩ジオパークサイクリングツアー開催
- 2021.05 ○ 協力隊卒業
- 2022.04 ○ 就職

19

-中・西部-

かみむら たけとも みき
上村(竹友)美樹「烏兎屋(うとや)」代表
「Cafe Brass」副代表

| 応募のきっかけは？

大学在学中、阿東地域のボランティア活動に参加し、阿東とのつながりができ、「土居神楽」の活動にも携わることになりました。知り合った魅力的な人たちと一緒にいたいと思うようになり、阿東で仕事を探すうちに協力隊が候補として挙がり、応募しました。

| どんな活動をしたかと思っていましたか？

自分のできることを生かして地域の役に立ち、阿東を広く知ってもらいたいと思っていました。

隊員時代：消しゴム版画教室



| 成長したな、と思えることは？

新卒で協力隊として着任したため、社会人としての一般常識的なことも含めて、地域の方に教えてもらい育てていただきました。

| 隊員時代の思い出を教えてください

当初は、道の駅のレジ業務が中心でしたが、後半から自分のやりたかったデザインや写真、動画の撮影を担当しました。道の駅の商品を「どうしたら魅力的に伝えられるか」を考え、勉強しながら、SNSに投稿したり、自主的に商品のPOPを作ったりする中で、少しずつポスターや商品パッケージなどの仕事を任せいただけるようになりました。

隊員時代：商品の撮影



| 大変だったことは？

「行政と地域」、「地域の中での人間関係」の板挟みになったことや、クリエイターとして尊重されなかったことです。デザインや写真は著作権があり、制作には時間がかかります。もちろん、そのことを理解してくださる方もいらっしゃいましたが、クリエイターとしての労力や努力を理解していただけないこともありました。

| 現在、そしてこれからについて

結婚を機に、ご縁のあった美祢市に引っ越しました。そして、思いがけず、空き店舗を借りることになり、ランチとスコーンを提供するカフェ「Cafe Brass」をオープンしました。地域に愛されるお店として、夫婦で長く続けていきたいと思っています。

また、カフェの営業日以外は、デザイン業や消しゴム版画家として活動をしています。阿東には今でも、毎月1~3回は通い、地域の会議などに参加し交流を続けています。



消しゴム版画作品「元祖の夢」▲

| 協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

地域の方と仲良くなること、そして、自分のやりたいことやできることを周囲に明確に伝えることが大切だと思います。大学卒業後すぐに協力隊になりましたが、協力隊は「新卒」だからといって特に有利になるものではありません。「新卒」は1度しか使えないカード。使い方はよく考えてみてください。

かみむら みき
上村 美樹さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 山口市
| 活動期間 | 2018年6月~2021年5月
| 活動内容 | 道の駅長門峡を核とした農林畜産業の振興、集客拡大

▶ 現在の仕事

「烏兎屋」代表、「Cafe Brass」副代表
| ホームページ | | インスタグラム |
<https://mitukiusagi712.wixsite.com/mitukiusagi>
https://www.instagram.com/cafe_brass_2021



Cafe Brass



上村さんのあゆみ

- 2015.10 ○ 徳佐りんご園復興ボランティアに参加
- 2018.03 ○ 大学卒業
- 2018.06 ○ 協力隊着任
- 2018.07 ○ 道の駅長門峡 Instagram開設
- 2018.11 ○ 道の駅長門峡 cookpad開設
- 2019.10 ○ 廃校カフェ(喫茶かめやま)プロジェクト 企画・実施
- 2019.11 ○ 結婚

- 2021.05 ○ 協力隊卒業
- 2021.08 ○ 「Cafe Brass」オープン
- 2022.03 ○ 「烏兎屋」(消しゴム版画作家業・デザイン業)開業



20
-中・西部-

た なか あい き
田中 愛生
「田中ゲイ企画」代表

応募のきっかけは？

南フランスの大学に留学中、同じ東京都出身の友人に出会い、帰国後、一緒に地方を拠点としたビジネスを立ち上げたいと情報収集を続けていました。海外留学帰りの2人が、地方のコミュニティにどうやって馴染むかを考えていたところ、友人が協力隊の制度を探し当て、まずは隊員としてコミュニティに入り、地域に根差すことにしました。「南フランスの

ような気候の良い場所で暮らしたい」という願いもあり、瀬戸内海側の晴れの多い地域に候補地を絞り込んだところ、山口市の募集を知り、2人そろって応募しました。

隊員時代の思い出を教えてください

山口を盛り上げるために思い付くもの、自分たちがやりたいと思うことをどんどん提案しました。市役所に籍を置いていましたので、それほど潤沢ではない予算の中で、できることとできないことを意識しながら、何十本もの企画を提案し続けました。

2020年と2021年の夏には、美濃ヶ浜に「タイニーバー」をオープンしました。自分たちが楽しく仕事を進めていると、周りの皆さんも楽しんでいただけます。多くの人を巻き込んだ結果、複数のメディアで紹介していただけ、話題作りと集客を実現することができました。地元の方も、「海と空のオープンな場所で、楽しい時間を過ごせました」と喜ばれ、地元へ貢献できていることを実感できました。やり

たいことを提案し実現するためには、周りの方に自分を理解していただき、好感を持っていただくことが大切です。

現在、そしてこれからについて

山口では、LGBT(性的少数者)についての理解が進んでいないと感じ、身近なところにもLGBTに該当する人がいるということを伝えたくて、卒業後に湯田温泉で「田中ゲイ企画」という名のバーをオープンしました。どんな方にもお越しいただきたいと、あえて直球の店名にしましたので、最初は地元の方に受け入れられるか不安でしたが、今ではLGBT当事者の方はもちろん、それ以外の方からも好評をいただき賑わっています。

人生は様々な選択肢がありますが、選べるものには限りがあります。これはちょうどカタログのようなものだと思っていて、その時の手持ちのスキルや経験、金銭状況から、常に最良の商品、そして、人生においては選択肢を選ぶようにしています。「ミスターゲイジャパン2022」のグランプリを受賞したこともあり、今後はその経験を生かし、活動をしていきたいと考えています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

協力隊として活動するのに、活動資金の作り方や使い方についての問題は欠かせません。お金の話は話題にしやすいこともありますが、早い段階で先輩隊員や市の担当職員に相談することをお勧めします。スムーズな活動のための方法が見つかるはずですよ。

隊員時代：イベント会場



た なか あい き
田中 愛生さん

▶ 協力隊として
| 着任地 | 山口市
| 活動期間 | 2019年3月～2022年2月
| 活動内容 | ニューツーリズム形成業務

▶ 現在の仕事
「田中ゲイ企画」代表
| インスタグラム |
<https://www.instagram.com/tanakagaykikaku/>



隊員時代：タイニーバー



田中さんのあゆみ

- 2018. ◯ 協力隊志望
- 2019.03 ◯ 協力隊着任
- 2020.02 ◯ タイニーバー製作
- 2020.07 ◯ タイニーバー運営 (2021年度も実施)
- 2021.11 ◯ 「田中ゲイ企画」の開店準備
- 2022.02 ◯ 協力隊卒業
- 2022.03 ◯ 「田中ゲイ企画」オープン

なか おか ゆう すけ
中岡 佑輔

「Kizuku Project」代表
「Trico.」代表

21

-中・西部-



応募のきっかけは？

地方でゆっくり暮らしたいなと思っていましたが、移住するとしても歳を取ってからのセカンドライフかなとぼんやり考えていました。「田舎暮らし」をインターネットで検索し、偶然、大阪での移住フェアを知り、情報を求めて参加しました。そこで、山口市などが協力隊を募集していて、協力隊について初めて知りました。

実家のある神戸からは3時間圏内で、すぐに帰れるところが現実的な移住先だと思い、移住フェアで知った、気になる自治体へ下見に行きました。幼少期に山口県に住んだことはありましたが、ほとんど記憶はありませんでした。

着任後の山口市の印象等を教えてください

星が綺麗な反面、夜は暗過ぎてホームシックになりましたが、押しつけがましくない親切さやアットホームさ、地域の距離感というのが自分の肌に合っていました。同じ地域に協力隊OBがいらっかったことも安心感につながりました。

移住というハードルは感じませんでした。この先、家と仕事とコミュニティが担保されれば、移住への流れは大きくなると感じました。実際に移住してみて、「よっほどの理由がないと移住してはいけない」という考えが覆りました。移住とは「住む場所が変わった」だけで、移住後は「こっちが楽だなあ」と、以前は肩身の狭い暮らしをしていたことに気付きました。地方暮らしの良さに気付いた人は、地方が良いと思うはずですが、それを気付くすべがない人が多いとも思います。

隊員時代の思い出を教えてください

「何を求められているか」を吸い上げようとばかりしたり、「協力隊とは何か」などを考え込んでしまったりして、何をしたら良いのか、分からなくなったこともありました。

露出が苦手で、自分と向き合うことをしてきませんでした。セルフプロデュースの大切さを認識したので、コンテストなど挑戦できることはしました。

▼ぶち-CONやまぐち
2019 奨励賞



現在、そしてこれからについて

皮関連やイベント企画、移住サポーターなどの仕事をしながら、空き家バンクで見つけた古民家の物件をセルフリノベしています。誰かの、何かの役に立つことがやりがいになっています。

自分はクリエイターだと思っていて、いつか「自分の箱」を持ちたいと思っていました。地方は家賃が安く抑えられるので、クリエイターの仕事場としては最適です。地方にはチャンスがあるし、マーケットのサイズと自分の生産量のバランスが良いのではと思っています。でも、これから個人事業主として壁にぶつかるのかもしれない。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

協力隊は通過点であり、任期中は何かにも挑戦できる貴重な時間なので、先入観を持たずにまずは挑戦してください。

なか おか ゆう すけ
中岡 佑輔さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 山口市
| 活動期間 | 2019年3月～2022年2月
| 活動内容 | ニューツーリズム形成業務

▶ 現在の仕事

「Kizuku Project」代表、「Trico.」代表
| インスタグラム |
https://www.instagram.com/kizuku_project/
https://www.instagram.com/trico_2018/



📷 キッチンカー

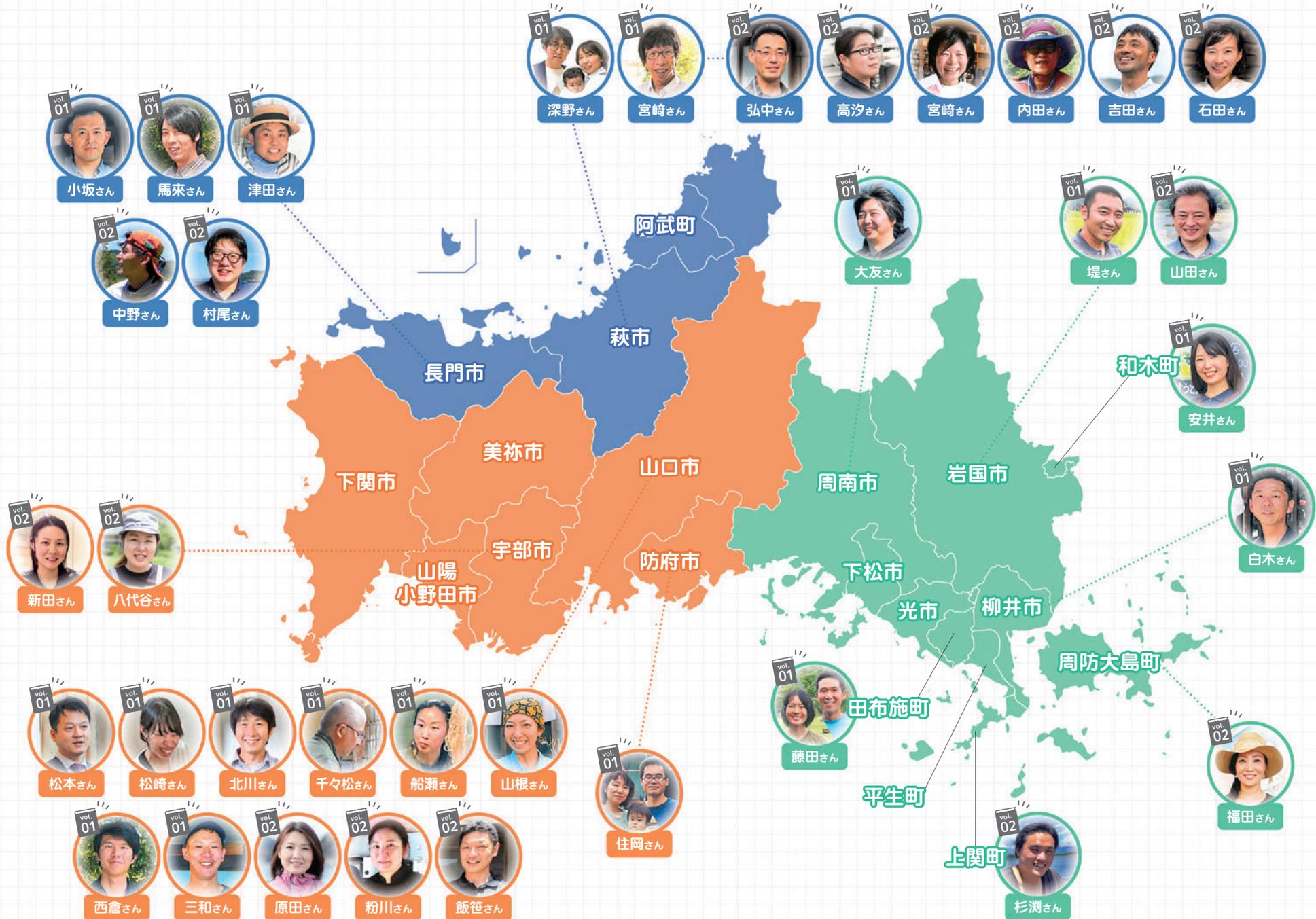


中岡さんのあゆみ

- 2017.07 ○ 「Trico.」開業
- 2018.08 ○ 大阪の移住フェア参加
- 2019.03 ○ 協力隊着任
- 2019.08 ○ ぶち-CONやまぐち 2019奨励賞受賞
- 2020.09 ○ ズビエフェスタ企画 (2021年11月も企画)
キッチンカー製作
- 2021.07 ○ パンと珈琲のマルシェ企画 (10月も企画)
- 2021.12 ○ クリスマスマーケット企画
- 2022.01 ○ 「Kizuku Project」開業
- 2022.02 ○ 古民家のセルフリノベ開始
- 協力隊卒業

隊員時代：皮のワークショップ





山口県の地域おこし協力隊の募集

募集情報は随時更新しています。

<https://www.ymg-uji.jp/working/supporter/>



Facebook「山口県の地域おこし協力隊」

県内隊員や隊員OBOGの活動の様子などを発信しています。

<https://www.facebook.com/kyouryokutai.yamaguchi/>



東京・大阪の相談窓口

地域おこし協力隊の募集情報のほか、やまぐちでの暮らし全般について、お気軽にご相談ください。(来所の方は、事前にお電話でご連絡ください。)

▶ オンラインでの相談

<https://timerex.net/s/yamaguchi.pref.smoutsoudan/e63588a8>



東京 やまぐち暮らし東京支援センター



☎ 03-6273-4887 FAX 03-6273-4404

✉ yamaguchi@furusatokaiki.net

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8階
NPO法人ふるさと回帰支援センター内

相談時間 10:00～18:00
※月曜日、祝日、お盆・年末年始は休み

大阪 やまぐち暮らし大阪支援センター



☎ 06-6341-0755 FAX 06-6341-0769

✉ u-turn-osaka@joby.jp

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-4-13
阪神産経桜橋ビル2階
山口県大阪事務所内

相談時間 9:30～17:00
※土曜日、日曜日、祝日、年末年始は休み

山口県の地域おこし協力隊 OB・OG活動紹介 vol.3

発行 「住んでみいね!ぶちええ山口」県民会議

〒753-8501 山口市滝町1-1

(山口県総合企画部中山間地域づくり推進課)

TEL:083-933-2546

E-mail: yg-ckokoshi@pref.yamaguchi.lg.jp

取材 YY! ターン コンシェルジュ